

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.40				3.3
1 音環境				3.0	0.15				3.0
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40				
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能		-		3.0	0.60				
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-							
1.3 吸音		-		3.0	0.20				
2 温熱環境				3.2	0.35				3.2
2.1 室温制御				3.5	0.50				
1 室温		-		3.0	0.38				
2 外皮性能		断熱性能の高い外皮材料を使用		5.0	0.25				
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38				
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20				
2.3 空調方式		-		3.0	0.30				
3 光・視環境				3.8	0.25				3.8
3.1 昼光利用				2.2	0.30				
1 昼光率		-		1.0	0.60				
2 方位別開口		-							
3 昼光利用設備		トップライトの採用		4.0	0.40				
3.2 グレア対策				5.0	0.30				
1 昼光制御		電動ブラインドの採用		5.0	1.00				
3.3 照度		-		3.0	0.15				
3.4 照明制御		1作業単位で制御可能		5.0	0.25				
4 空気質環境				3.3	0.25				3.3
4.1 発生源対策				4.0	0.50				
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用		4.0	1.00				
4.2 換気				2.3	0.30				
1 換気量		-		3.0	0.33				
2 自然換気性能		-		1.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33				
4.3 運用管理				3.0	0.20				
1 CO ₂ の監視		-		3.0	0.50				
2 喫煙の制御		-		3.0	0.50				
Q2 サービス性能					0.30				3.5
1 機能性				2.9	0.40				2.9
1.1 機能性・使いやすさ				2.6	0.40				
1 広さ・収納性		-		3.0	0.33				
2 高度情報通信設備対応		-		2.0	0.33				
3 パリアフリー計画		-		3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30				
1 広さ感・景観		天井高:2.7m以上		4.0	0.33				
2 リフレッシュスペース		-		3.0	0.33				
3 内装計画		-		3.0	0.33				
1.3 維持管理				3.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				3.9	0.30				3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				4.6	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		50%増の耐震性を有する		5.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長いタイルカーペットやクロスを採用		4.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		耐用年数が短くなるダクトはガルバリウムを採用		4.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水(B)、排水(B)、冷媒(C)		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20				
2.4 信頼性				3.0	0.20				
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20				
3 電気設備		-		3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20				
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20				

3 対応性・更新性			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		0.1≦壁長さ比率<0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		床積載荷重:4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		-	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		公共空間からほとんど見えない	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		効率のよい設備機器を導入	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		機械式継手、QLデッキ等を採用	4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率:66%	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止		-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	3.0	0.33	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制		-	-	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音		-	3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	-	-	○	-	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0	-	-	○	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	9.0	-	2.0	-	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	-	1.0	1.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	3.0	-	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.2	窓の日射熱取得率(η) -
	U値(W/m2K)	窓システム 2.1 屋根 0.4 外壁 0.4 床 0.4
	住戸部分 窓システムU値 -	外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 -	
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -	

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人	病床 - /床	シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/m ²		
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.7m以Jm		
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース -	レストスペース -	
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年		
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年		
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.9m以Jm		
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 20.0%		
3.2 荷重のゆとり	床荷重 4900 N/m ²		

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 -	建物緑化指数 -		
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 -	水平投影面積率 -	地表面対策面積率 -	舗装面積率 -

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.77	断熱等性能等級	対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 -	MJ/年m ²	採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -
			通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.53	住宅 -	太陽光 86.1kW 太陽熱等 - 蓄電池 -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 -	エコマーク商品 -	自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -		
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) -	地球温暖化係数(GWP) -	
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) -	地球温暖化係数(GWP) -	
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) -	地球温暖化係数(GWP) -	

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 -	隣棟間隔指標R _w -			
	地表面対策面積率 -	屋根面対策面積率 -	外壁面対策面積率 -		
	見付面積S _b -	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s - m	基準高さH _b - m		
	緑地 m ²	水面 m ²	保水性対策面 m ²	高反射対策面 m ²	再帰性反射対策面 m ²